

D部門論文委員会意見交換会

2010年8月26日(木)

芝浦工業大学豊洲キャンパス 交流棟401教室

議事次第

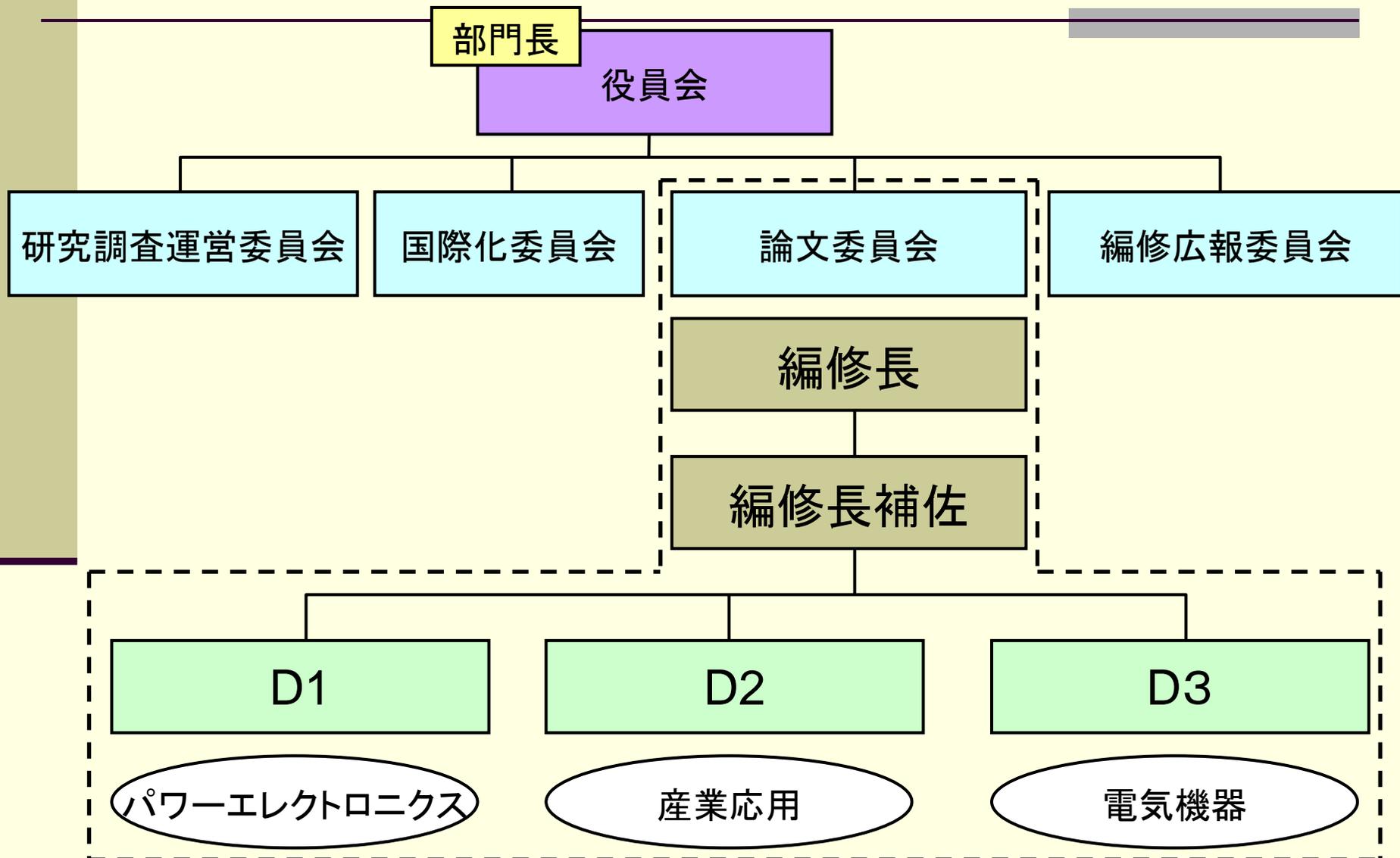
- 編修長あいさつ.....大石編修長
- 査読マニュアルについて.....大石編修長
- 論文投稿・掲載状況.....事務局まとめ
- 電子査読システムの運用状況.....村上編修長補佐
- 論文委員意見と回答.....大石編修長
- フリーディスカッション

編修長あいさつ

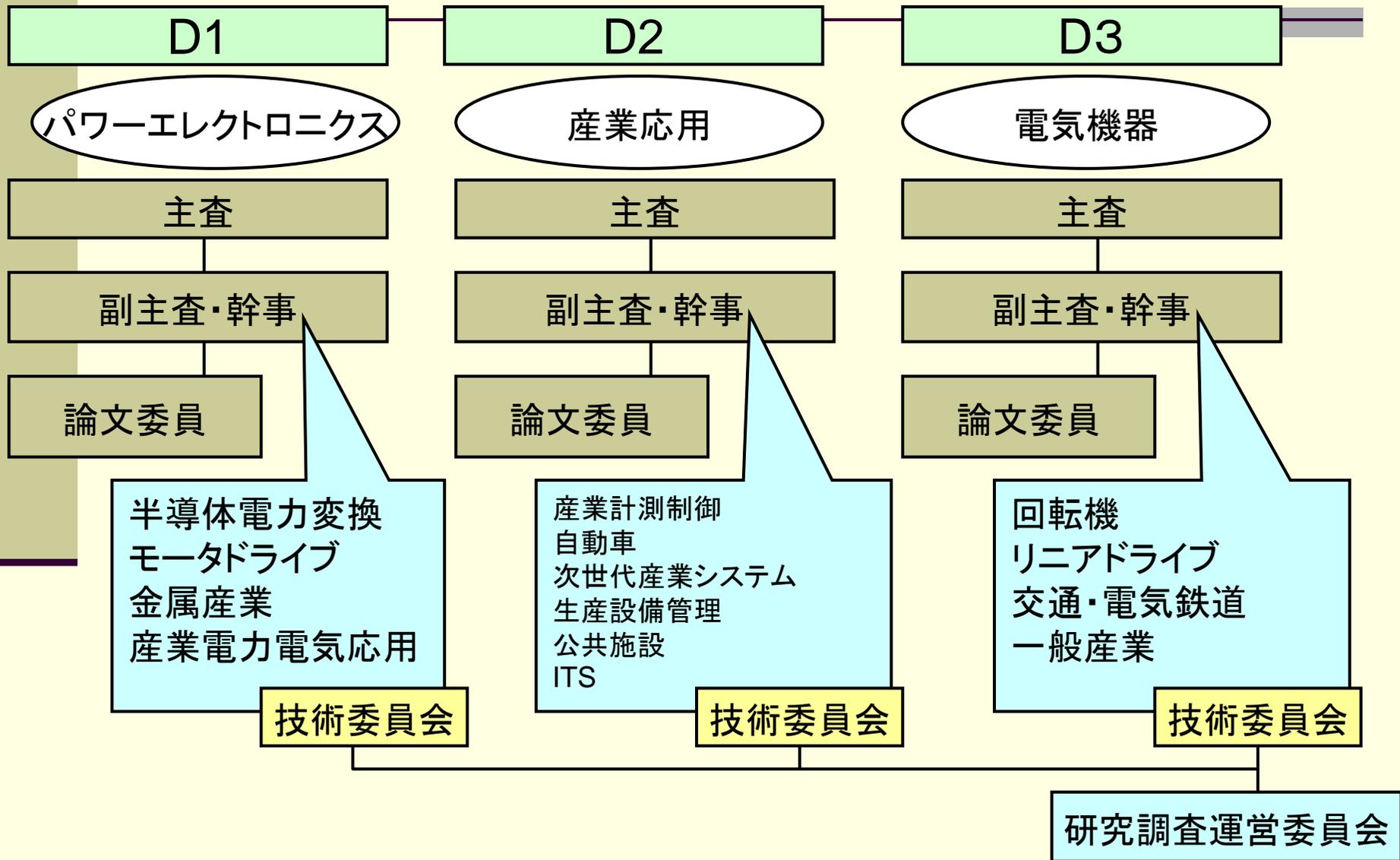
編修長 大石潔

(長岡技術科学大学)

D部門における論文委員会



論文委員会の組織



論文委員会の構成

編修長: 大石潔 (長岡技科大)

編修長補佐: 村上俊之 (慶大)

D1

主査: 藤崎敬介 (豊田工大)

副主査: 木村紀之 (大阪工大)
幹事: 野口季彦 (静岡大)
綾野秀樹 (日立)
船渡寛人 (宇都宮大)
結城和明 (東芝)
庄山正仁 (九大)
小黑龍一 (九工大)

論文委員: 110名

D2

主査: 寺田賢治 (徳島大)

副主査: 森本雅之 (東海大)
幹事: 亀井克之 (三菱電機)
市川紀充 (工学院大)
岩崎誠 (名工大)
鈴木健嗣 (筑波大)
高橋聡 (名古屋電機工業)
高橋悟 (香川大)
山口高司 (リコー)

論文委員: 97名

D3

主査: 高瀬冬人 (摂南大)

副主査: 米谷晴之 (三菱電機)
幹事: 村井敏昭 (JR東海)
樋口剛 (長崎大)
三上浩幸 (日立)
近藤圭一郎 (千葉大)
廣塚功 (中部大)

論文委員: 121名

編修長あいさつ

- 論文をよりよいものにしよう！
- 編修作業をより透明にしよう！

論文の著者と査読者に共通認識を持っていただくことが重要

- 査読マニュアルの周知・徹底
- 論文委員会ホームページの活用
- ニュースレターの積極的な活用

本日の出席予定者数

- D1 118名
 - 出席:45名, 欠席:34名, 未定:29名
- D2 106名
 - 出席:17名, 欠席:42名, 未定:47名
- D3 130名
 - 出席:24名, 欠席:50名, 未定:56名
- 編修広報委員
 - 出席:3名

出席者総数:89名(H21:63名, H20:43名)

議事次第

- 編修長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・大石編修長
- 査読マニュアルについて・・・・・・・・大石編修長
- 論文投稿・掲載状況・・・・・・・・事務局まとめ
- 電子査読システムの運用状況・・・・村上編修長補佐
- 論文委員意見と回答・・・・・・・・大石編修長
- フリーディスカッション

査読マニュアルについて

編修長 大石潔

(長岡技術科学大学)

査読マニュアルの目的

■ 目的

- 論文査読の基準を明確にすること。
- 論文投稿者と査読者が論文に対して共通の認識を持つこと。
- 査読期間を短縮すること。
- 査読に対する不公平感をなくすこと。

部門誌論文・査読の基本的考え方

- 論文の内容に対する全責任は投稿者にある。
- 論文の査読は論文指導ではない。
- 論文の価値の評価をするのは査読者ではなく、読者である。
 - 投稿者は評価に耐えられる論文を作るよう、査読者は論文を早く取り上げるよう努力をすべき。
- 次の論文を出したくなるような査読をすべきである。
 - 何でも掲載すればよいというのでは勿論ない。
 - 論文誌のレベルが下がれば投稿する魅力がなくなる。

査読の要点(論文が備えるべき要件)

- 電気**学術**または**技術**に寄与するか
- **新規性, 創造性, 有用性**のいずれか1つが認められるか
技術面のみならず、考え方や纏め方、各種応用上の問題点の指摘など、広い観点からの**新規性、創造性、有用性の判断がポイント**
- 明白な誤り, 矛盾点がないか。論旨が一貫しているか。まえがきで指摘した問題点が、むすびで結論付けられているか
- 同一内容, 類似内容が発表されていないか

判定の基準

- 判定は4段階とし、以下の基準による。
 - ① エディトリアルな修正のみ：
掲載(A判定)
 - ② 修正内容が推奨項目(Suggested change)のみ：
条件付き掲載 (照会后掲載) (B判定)
 - ③ 修正内容に必須項目(Mandatory change)を含む：
照会后判定(C判定)
 - ④ 論文の要件を具備していない：
返送(D判定)
- 照会后判定(C)は初回査読のみ選択可能

照会文の書き方(A, B, C判定)

- ① 必須修正項目(Mandatory change),
 - ② 推奨修正項目(Suggested change),
 - ③ エディトリアルな修正項目(Editorialchange)
- に分け, 判定の根拠を明確に記載する。
- ①の必須項目のある論文は, 照会后判定(C)とする。
 - ②の推奨項目と③の項目のみの論文は照会后掲載(B)とする。
 - ③の項目のみの論文は掲載(A)とする。

1回目の査読でA判定をつける場合 の判定の際の注意

- 電気学術または技術に寄与していることを記載する。
- 新規性, 創造性, 有用性のどれが認められるかを(複数でも良い), 明確に記載する。

返送文の書き方

- 理由を具体的に、明確に記載する。
- 客観的な証拠に欠けていると判断された論文については修正の上、新たな論文としての投稿を勧める。
- 新規性、創造性、有用性のいずれも有していないことを明確に説明する。

(例)

- 既に発表されている論文**との違い、優位性が無い、あるいは、同一内容である。
- 論文の目的・主張・効果などが、論文記載のシミュレーションや実験データでは確認できず、新規性、創造性、有用性のどれも認められない。
- 理論式の展開の**部分に誤りがある。

その他

- 掲載決定論文の内容の変更は、原則として誤字、脱字、フォントの不一致など、editorialな修正を除いて一切認められない。
- 掲載決定後、最終原稿を作成する過程で意図的に論文として不適切な文言を追加したことが明らかになった場合には、掲載の決定を取り消す場合がある。
- 査読マニュアルの内容は、常に改善ができることとする

査読フローの改訂

- 昨年の意見交換会の論文委員の意見を受けて、D部門論文委員会主査会、D部門役員会、編修会議の審議を経て、D部門では新しい査読フローを、来年1月より、2年間試行する予定である。現行の電子査読システムの運用の範囲内の改訂となっている。
- **改訂ポイント**
 - B判定とC判定をした論文委員は、著者照会後に再査読を必ず行うことになる。

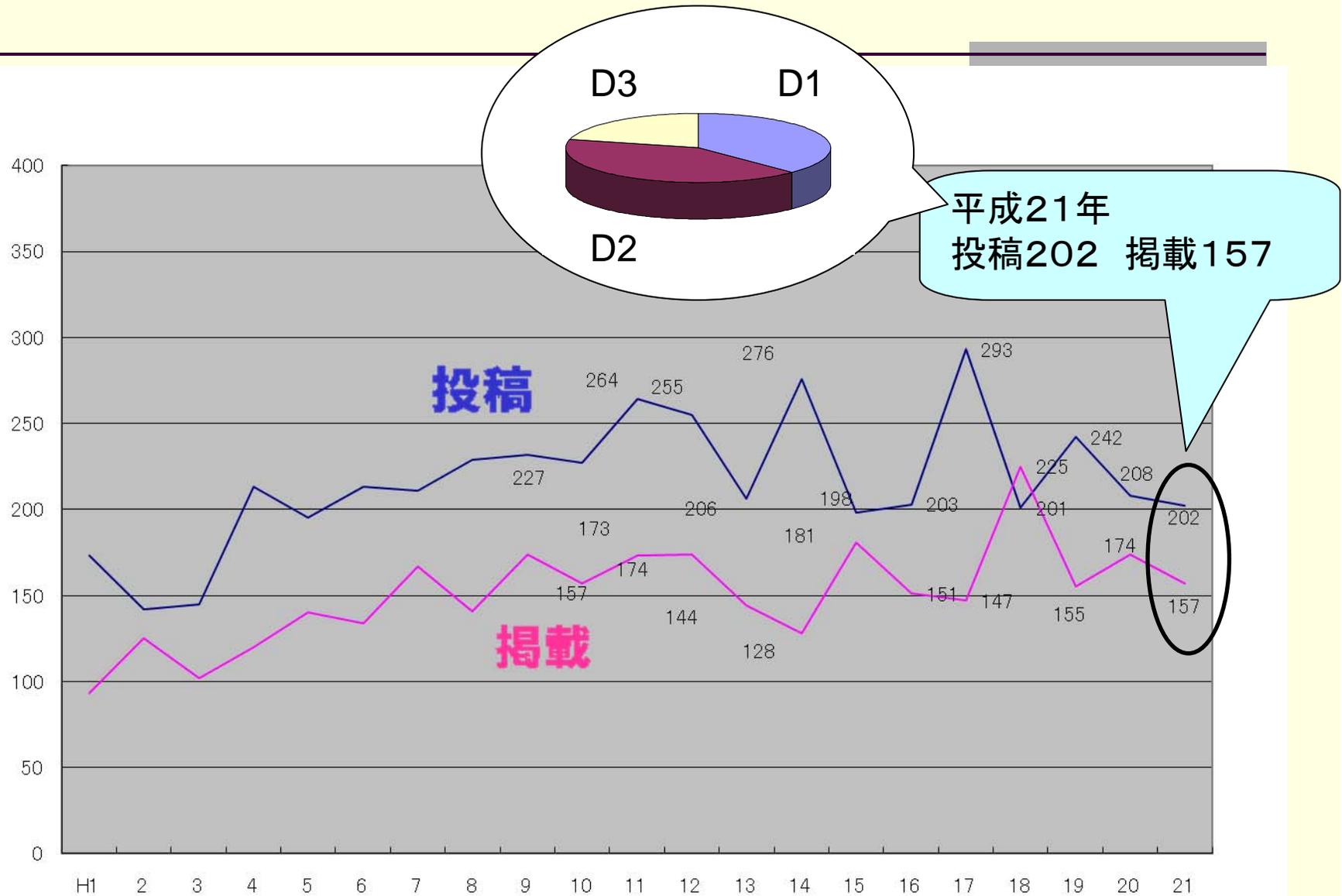
議事次第

- 編修長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・大石編修長
- 査読マニュアルについて・・・・・・・・大石編修長
- 論文投稿・掲載状況・・・・・・・・事務局まとめ
- 電子査読システムの運用状況・・・・村上編修長補佐
- 論文委員意見と回答・・・・・・・・大石編修長
- フリーディスカッション

論文投稿・掲載状況

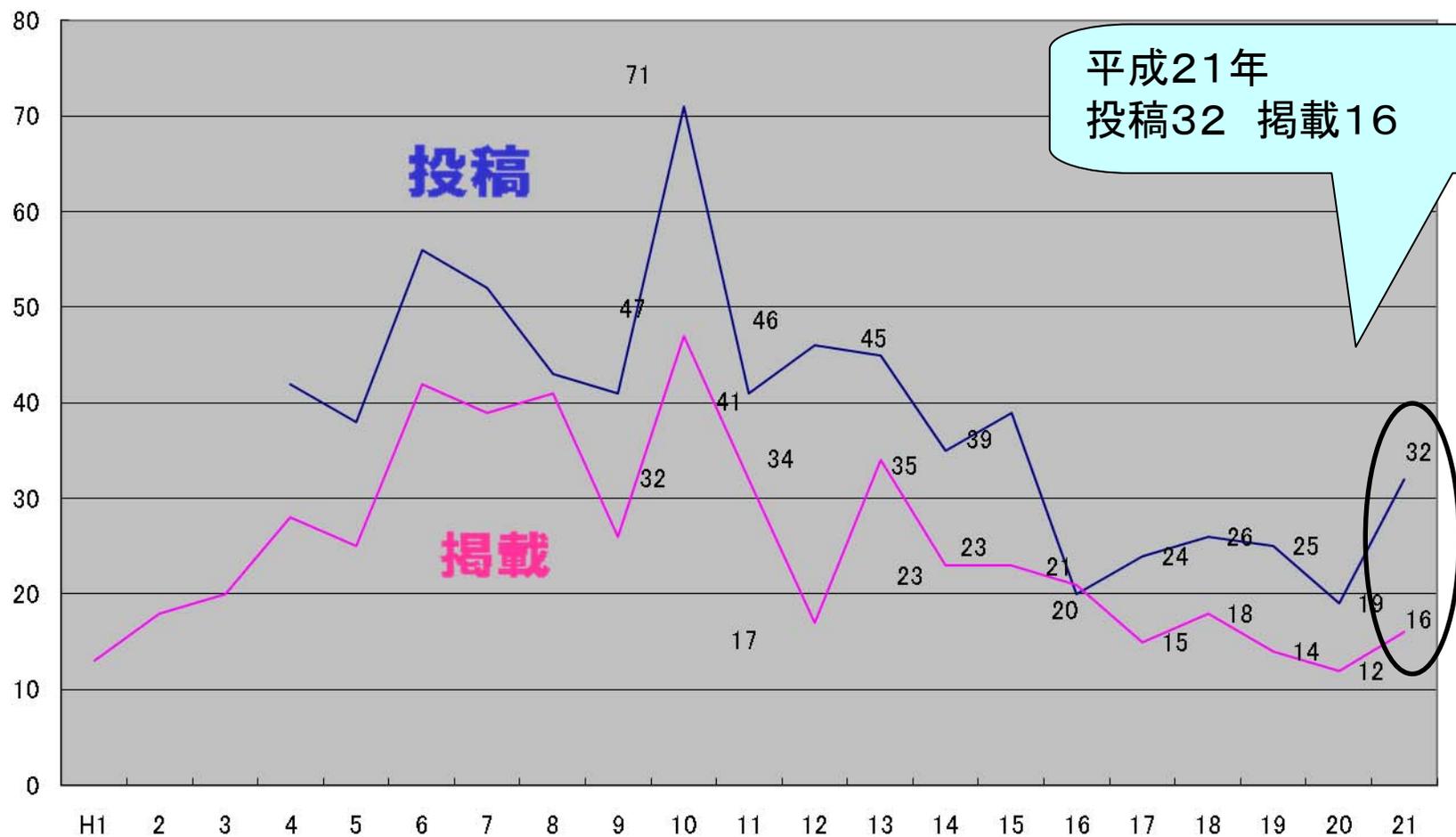
事務局まとめ

論文誌D 論文投稿・掲載件数の推移



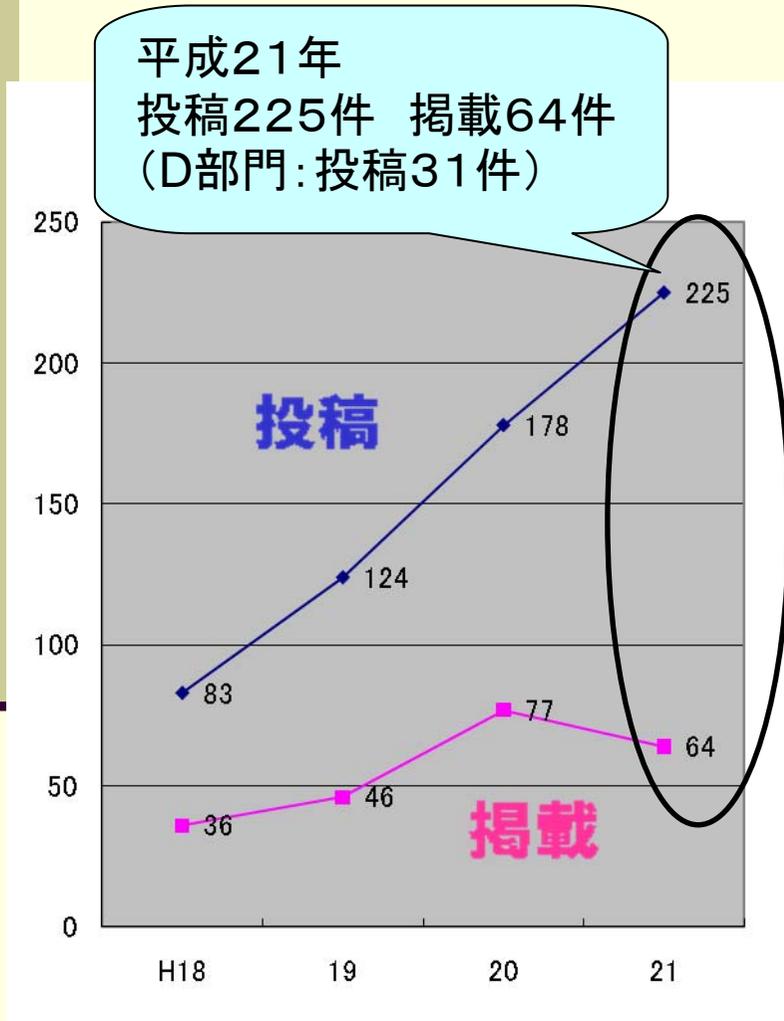
論文誌D

研究開発レター投稿・掲載件数の推移

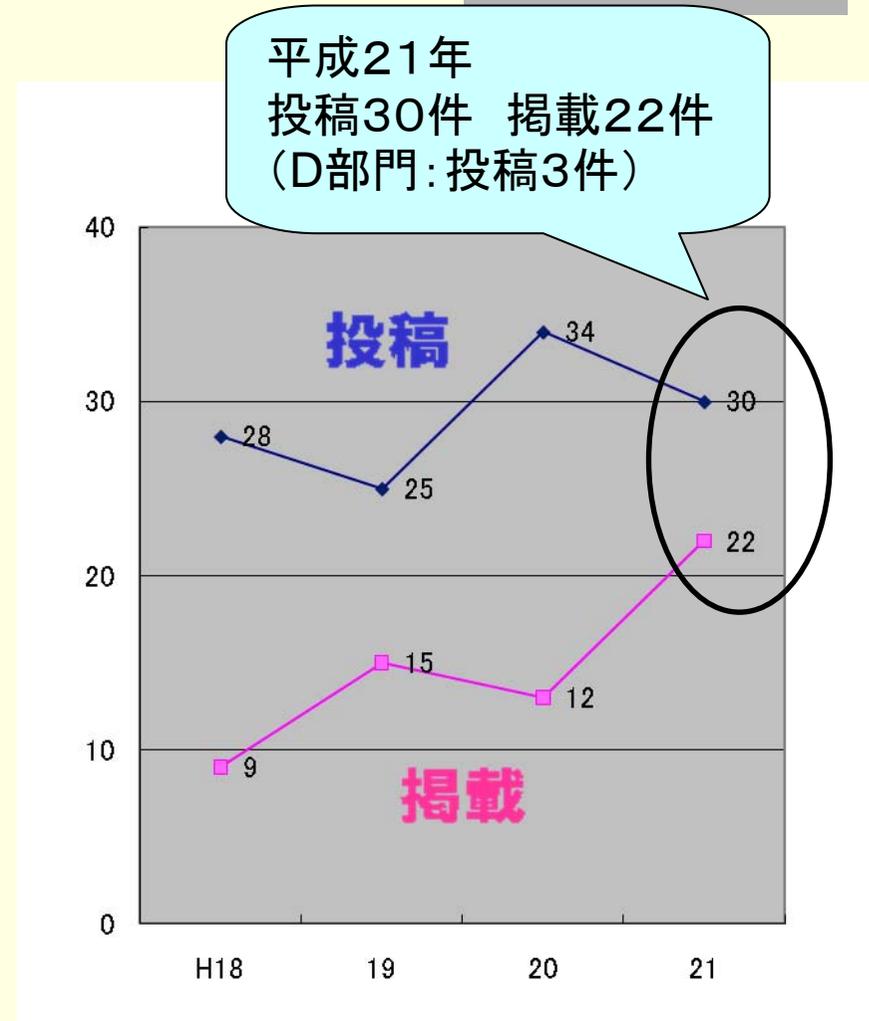


全部門 共通英文論文誌

論文・研究開発レター 投稿・掲載件数の推移



論文

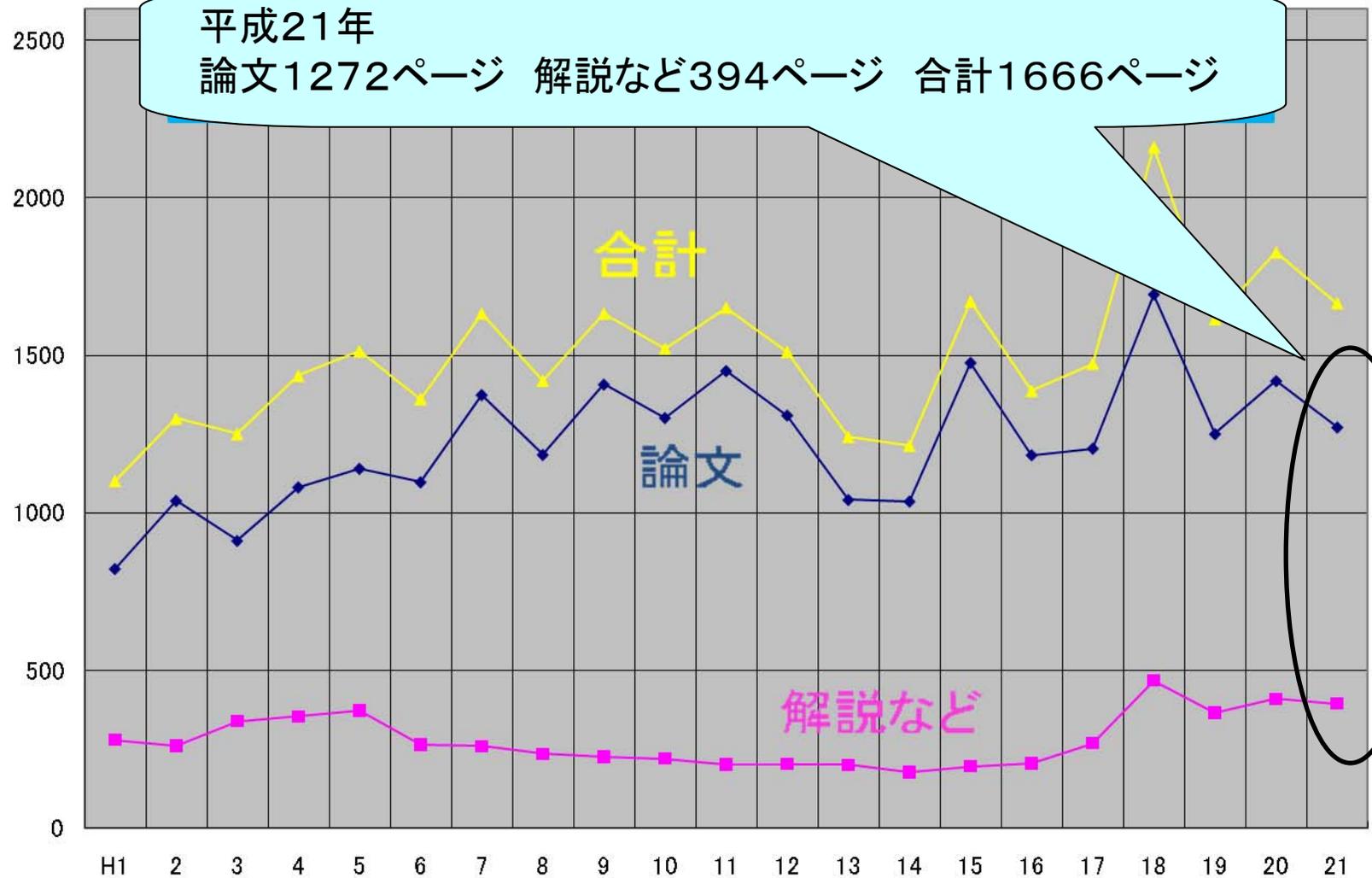


研究開発レター

共通英文論文誌

- 平成20年度から一般論文と同様の査読
- アメリカThomson社の“Science Citation Index Expanded (TM) (SCI)”に登録
- 平成21年D部門関連の一般論文投稿が26件

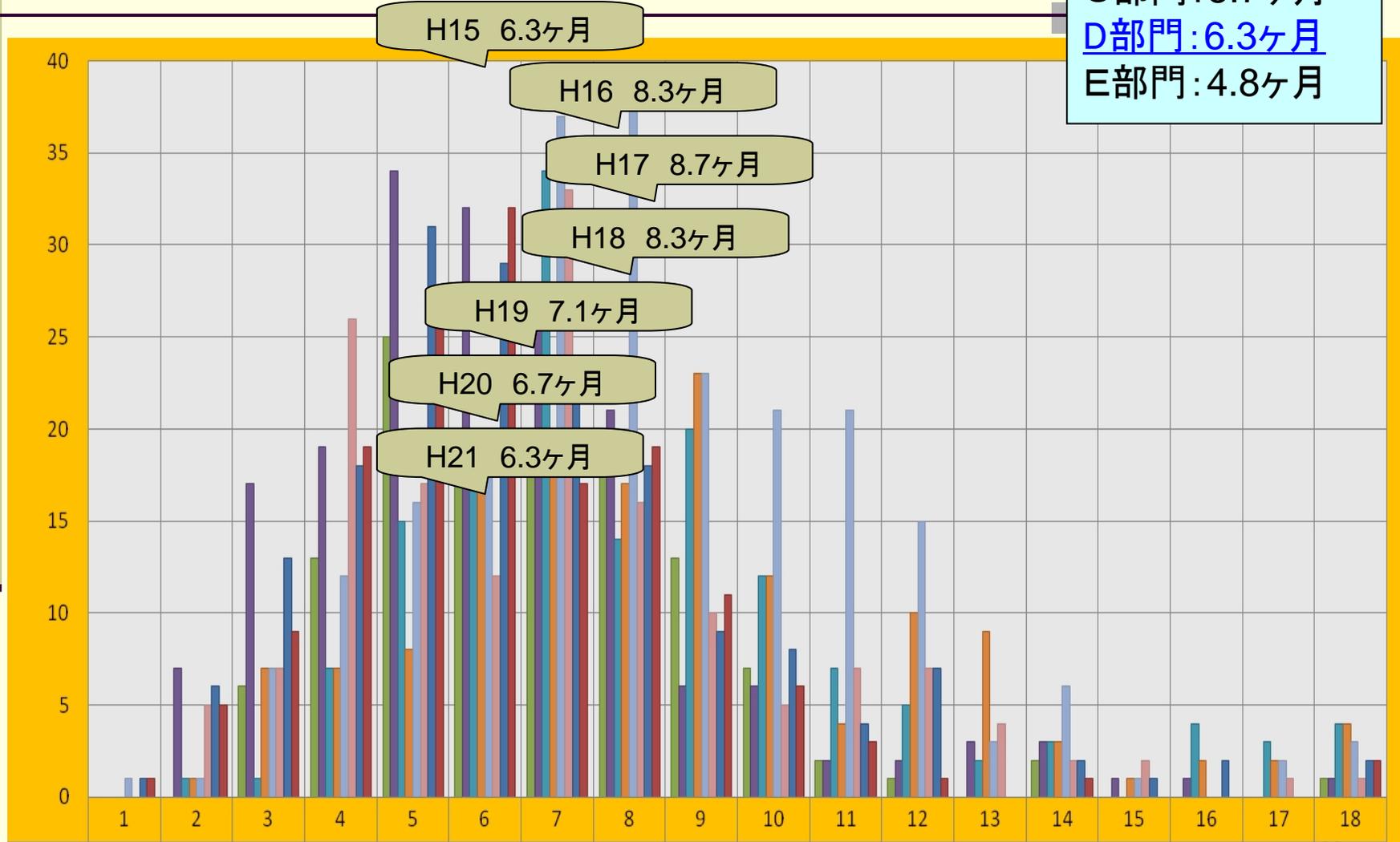
論文誌D 発行ページ数の推移



論文誌D 論文掲載までの所要月数

平成21年
 A部門:4.7ヶ月
 B部門:5.2ヶ月
 C部門:5.7ヶ月
D部門:6.3ヶ月
 E部門:4.8ヶ月

掲載数



月数

Extended Summaryのチェック

- 平成20年から、掲載が決定した和文論文のExtended Summary のネイティブ・チェック試行
- 全論文に拡大の方針
 - 外国人が理解できるExtended Summary へ！

議事次第

- 編修長あいさつ.....大石編修長
- 査読マニュアルについて.....大石編修長
- 論文投稿・掲載状況.....事務局まとめ
- 電子査読システムの運用状況.....村上編修長補佐
- 論文委員意見と回答.....大石編修長
- フリーディスカッション

電子査読システムの運用状況

編修長補佐 村上俊之
(慶応義塾大学)

電子投稿・査読システム運用状況

- 論文投稿時の**和文要旨の提出が廃止**になります。それに伴い、**8月25日の投稿から和文要旨は不要**となります。なお、電子投稿・査読システムの論文投稿画面には、「日本語論文の場合も『和文論文要旨』の提出は不要となりましたので、PDFファイルをアップロードする必要はありません。」との注意書きを記載しました。

電子投稿・査読システム運用状況

- 平成22年1月から、共通英文誌の電子査読・投稿システムの査読フロー変更（部門誌と同じフローへ：初回査読でC判定可）
- 全部門に跨る電子投稿・査読システム改善検討WGにおいてシステムのバージョンアップを検討

新しいシステム

■ 変更点

- データベース(DB)をBarkleyDBからpostgreSQLへ変更

- DB構造は、登録者DB,論文DB,査読DBからなり、登録者DB(査読者選定)に関しては全部門間で共有。移行期間に登録情報を再度入力をお願いすることになります。何卒ご協力をお願いいたします。

新システムへの移行スケジュール

年度	月	予定				
2010	4				9	
	5				10	
	6				11	
	7	新システム覚書締結 開発開始			12	
	8				1	タスクB完了 E部門用編修長 skip機能作込開始 (タスクC)
	9					
	10					
	11					
	12					
	1					
	2				2	
					3	
		3				
2011	4					
	5					
	6					
	7	新システム（全部門用）実装完了 (タスクA)			2010/5 ～ 2011/1	マニュアルの整備
	8	新システムテスト運営開始 新システムの不具合等修正 (タスクB)			2	
				2012		
				4	タスクC完了 (納入) 新システム運営開始 (予定)	

議事次第

- 編修長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・大石編修長
- 査読マニュアルについて・・・・・・・・大石編修長
- 論文投稿・掲載状況・・・・・・・・事務局まとめ
- 電子査読システムの運用状況・・・・村上編修長補佐
- 論文委員意見と回答・・・・・・・・大石編修長
- フリーディスカッション

論文委員意見と回答

編修長 大石潔

(長岡技術科学大学)

事前のご意見と質問について

- Q1 英文論文誌について
- Q2 B判定について
- Q3 海外からの引用増の工夫
- Q4 更新のお知らせの希望
- Q5 査読期限確認メールの希望
- Q6 電子ジャーナル化の対応
- Q7 推薦論文「制度」の本格化
- Q8 投稿料金のさらなる低減
- Q9 採録／掲載までの期間短縮
- Q10 部門との連携
- Q11 若手投稿者への支援制度
- Q12 査読者に対するインセンティブの強化
- Q13 査読者の評価
- Q14 最近の投稿論文について
- Q15 論文要件の「新規性」について
- Q16 査読者への査読結果報告
- Q17 他の査読者の査読結果の閲覧希望
- Q18 主査や論文幹事での処理の遅延

合計18件, 頂きました.
ありがとうございました.

H21年: 11件, H20年: 7件

Q1 英文論文誌について

- (教員, D1) 英文論文誌の掲載があまりにも遅いと思います(掲載決定後1年3ヶ月以上もかかる)。これについては、Wileyとの契約の制約からページ数が増やせないこと、最近ではD部門の担当特集をやめて一般論文にページを回していること、査読をより厳しくして掲載数を抑制しようとしていること、など伺っています。通常のD部門論文誌に英文で投稿するという選択肢もあるのですが、韓国や中国の研究者との共著論文を投稿しようとする場合、SCIやEIの登録論文誌ではないD部門論文誌には魅力があまり無いらしく、IEEEか韓国のJPEなどに投稿するほうがよい、ということになります。簡単には解決できないと思いますが、英文論文誌のページ数をフレキシブルに運用する方法、またはD部門誌がSCI登録される可能性は無いものでしょうか。近況をご説明いただけると、ありがたく存じます。

A1 英文論文誌について

- ページ数について

来年2月にSupplemental Issueを発行する予定と
しています。また、**全部門で特集企画を暫く見合
わせる**対策をとっています。

- 部門誌のSCI登録について

今のところ予定はありません。

Q2 B判定について

- (企業, D1) B判定は「照会后掲載」であり「修正内容が推奨項目のみのももの」と査読マニュアルには記載されています。にも拘わらず、「B」でありながら「適切な回答でなければDにする」という一文が添えられていたことがあった。1回目「C」に対する再査読のため、このような判定(再びCにはできない)だったのかと思う。親切心で「B」としたのかとも思うが、判定は白黒をはっきりさせるべきと思う。また、このような査読者の照会文は、著者に戻す前に、**幹事団で相談して修正を促す方がよい**のではないのでしょうか？

A2 B判定について

- ご指摘のとおりで、基本処理フローでは「B判定」から「D判定」にすることはありません。ただし、例外的にD判定とすることも可能となっています。これは照会事項に適切に対応が行われていない場合の処置のためです。
- 査読内容に関しては、その妥当性についても幹事団で吟味することを前提としています。

Q3 海外からの引用増の工夫

- (教員, D1) 海外から引用が多くなる工夫が必要
— 投稿原則英文論文、IEEEのとのリンク等

A3 海外からの引用増の工夫

- 部門誌では**英文Summary**を含めることで、本文が日本語だとしても**内容の引用が可能**なようにしております。また、SCI登録がなされている**共通英文誌**を活用することも有効と考えています。
- **特集号などによるIEEEとの直接的なリンク**は**著作権の問題等**で実現は難しいと考えています。
- **日本語論文の重要性が多く指摘**されているのも事実であり、論文投稿を全て英文とすることは今のところ考えておりません。

Q4 更新のお知らせの希望

- (企業, D1) 査読の考え方など、例年、意見交換会で得た情報は大変参考になっています。今年も欠席させて頂くのですが、議事録がWEBサイトにアップロードされましたら、更新のお知らせ等を貰えると大変ありがたいと思います。

A4 更新のお知らせの希望

- 是非, 実現したいと思います。

Q5 査読期限確認メールの希望

- (企業, D1) 査読期限が過ぎる前にも, 確認メールが来ると良いと思います。たとえば1週間前。

A5 査読期限確認メールの希望

- 現在、査読の催促は、査読依頼**31日後に1回**、**その後28日毎にe-mail**が送付されます。
- 査読受諾の催促は、査読依頼日より5日経過後、5日毎に行うように設定を変更しております。
- ご賛同が多いようでしたら、催促e-mailを**査読依頼後21日後に1回**、**その後7日毎に送付する**ように検討したいと思います。

Q6 電子ジャーナル化の対応

- (企業, D1) 論文誌が無くなるそうですね。これまでも、パラパラめくり、目にとまったものだけ読んだり破いて残したりする程度でした。わざわざ開いて見ることもなくなりそうです。何か読ませるためのご配慮はあるのでしょうか？これでは職場での回覧もなりますし、学会に顔を向けない多数の技術者が論文を[見る]機会もさらに減ると思われます。学位を欲しい人だけの学会になりそうで、些か**危**惧しております。

A6 電子ジャーナル化の対応

- 印刷版から電子ジャーナルへの移行については周知徹底する予定です。また、電子ジャーナル化により、**キーワード検索等で論文を直接検索**することも可能であり、**印刷版より効果的に論文が閲覧**できるというメリットもあると考えております。会員は**MyページIDと生年月日でログイン**閲覧できます。
- 論文誌冊子体の購読希望者のために、オンデマンド出版で冊子体を製作して販売するサービスを設ける予定です。なお、オンデマンド出版ではすべての原稿をモノクロ印刷とします。オンデマンド出版による論文誌冊子体は、会員には1冊1,260円(定価の2割引)で販売する予定です。

Q7 推薦論文「制度」の本格化

- (教員, D2) 研究会発表からの推薦論文「制度」の本格化
 - 査読(校閲)はあくまで中立的におこなうことは当然ですが, 研究会発表からの推薦論文「制度」の本格化して欲しい

A7 推薦論文「制度」の本格化

- 現在、研究会後に特集号を組むことで、研究会で発表された優秀論文の査読も迅速化等を行えるようになっていています。また、優秀論文に関しては、部門表彰・技術委員会表彰等も行っております。しかしながら、査読は一般論文と変わりなく行っており、査読内容に関して特別な配慮を行うことはしておりません。ただし、特集号エディタが研究会の推奨論文であることを、主査・幹事に通知することは可能と思います。

Q8 投稿料金のさらなる低減

- (教員, D2) 投稿料金のさらなる低減
 - 個人的な意見ですが, 参考文献を日英併記しなければならないので6ページ以内にまとめるのが難しいような気がします。

A8 投稿料金のさらなる低減

- 平成23年5月号より部門誌が電子ジャーナル化されます。それにともなって「掲載別刷料」を「掲載料」に変更し(論文別刷を原則廃止), 料金を現行の約65%に引き下げます(35%減)(平成22年10月1日以降に投稿されたものに適用)。
- 平成22年10月1日以降に投稿された論文より
- 6ページの論文の場合: ¥63, 000 (現在は¥95, 970)
- 7ページの論文の場合: ¥84, 000 (現在は¥130, 620)
- 8ページの論文の場合: ¥105, 000 (現在は¥162, 120)

Q9 採録／掲載までの期間短縮

- (教員, D2) 採録／掲載までの期間短縮
 - 期限までの確実な査読完了
 - 査読者の品質確保も重要

A9 採録／掲載までの期間短縮

- 産業応用部門誌に関しては、投稿論文の内容が多岐にわたっているため、査読者選定が年々難しくなっていることもあり、幹事団も苦悩しつつ査読期間短縮を目指しております。下記に示しますように、少しずつではありますが査読期間の短縮傾向が見られます。今後とも、論文委員の増員、査読催促の徹底等でさらなる査読期間の短縮を目指したいと思っております。

平成14年	6.80ヵ月
平成15年	6.32ヵ月
平成16年	8.37ヵ月
平成17年	8.70ヵ月

平成18年	8.32ヵ月
平成19年	7.10ヵ月
平成20年	6.70ヵ月
平成21年	6.30ヵ月

Q10 部門との連携

- (教員, D2) 部門との連携
 - 例えば, 画像処理関係ではC部門との分野的連携が候補となると思います。

A10 部門との連携

- 査読において、他の部門の論文委員を紹介してもらって、連携して査読することは可能です。部門間の調整は、編修長と編修長補佐が主査からの意見で行う様にしたいと思います。
- 産業応用部門大会のシンポジウムの企画等では、**技術委員会レベルでの積極的な交流**を促進する必要があるかと考えております。この点に関しては、研究調査運営委員会等でも議論をお願いしたいと考えております。

Q11 若手投稿者への支援制度

- (教員, D2)若手投稿者への支援制度
 - 例えば, 大学院生からの投稿料金の割引, 博士課程学生からの投稿については査読期間を少しだけ短めにしてあげるなど。

A11 若手投稿者への支援制度

- 論文査読に関しては、公平に行うことを鉄則にしたいと考えておりますが、査読期間の短縮に関しては**できる限り検討**したいと思います。学生の論文に関しては、在学期間の制約等もありますので、内容の評価には影響しないようにできるだけ迅速な査読を、幹事より査読者をお願いすることも考えたいと思います。
- 掲載料に関しては、学生料金を設ける予定はありません。電子ジャーナル化することで引き下げられます。

Q12 査読者に対するインセンティブの強化

- (教員, D2) 査読者に対するインセンティブの強化
 - 査読という作業が, 完全にボランティア精神だけで支えられているのはよいのか? 国際会議の中には, 査読報告書の文字数をカウントして査読者の質を吟味するところもあると聞きます。査読者が「査読してよかった」と思えるような仕組みがあればよいと思います。

A12 査読者に対するインセンティブの強化

- 査読者，幹事，主査は全てボランティア活動となっているため，世界に通用する電気学会とするための重要な役割であることを理解いただくことが必要かと考えております。
- 査読をすると「**上級会員**」の要件のポイントになります。
- 今のところ査読者に対するインセンティブの強化する得策はありませんが，査読を行って頂いた査読者全員の方の**お名前を感謝の意を表して論文誌等に掲載**しております。

Q13 査読者の評価

- (教員, D2) 査読委員は神様ではありません。担当幹事は自信をもって, 採否判定, 場合によっては査読者の評価さえも視野に入れてください。

A13 査読者の評価

- ごもつともな意見です。論文委員会においても、このことを編修長から説明をしています。
- 現在でも「幹事」の権限で、「査読者」の判定が適切でないと判断した場合には、「査読者追加」等を含め適正な判定となるような処理を行っております。
- 電子査読システムにおいて、「幹事」は査読者のこれまでの履歴を見ることが可能です。このような情報は、査読者の評価や選定の際に参考にできるようになっています。

Q14 最近の投稿論文について

- (企業, D2) 査読結果をテキストで入力できるようになったのが良い。最近の論文原稿は少なくとも形式が整って読み易くなった。が、実験条件設定や手法選択が唐突で吟味が足りないものが多い。

A14 最近の投稿論文について

- 論文著者の個人差によるものと考えます。良い論文もあります。掲載可の論文かどうかを判断して頂くことで良いかと思えます。**論文指導は決してしないよう**にお願い致します。

Q15 論文要件の「新規性」について

- (教員, D2) 投稿規則の「3.1 論文・Paperの要件」について、**新規性はmust条件とすべきではないか?** 下記の文面の論理からすると、例えば、(3),(4),(5)を満たせば良いこととなります。このケースでは、論文に「**新規性**」は問われないこととなります。(3)の「発展に役立つ」の文は新規性を含むと反論されるのかもしれませんが、新しくなくても発展に役立つかもしれません。

本会論文誌に掲載される論文・Paperは、電気分野の学術または技術に寄与する内容であり、次の(1)(2)(3)項のいずれかを満たし、かつ(4)(5)の両項を満たすものとします。

- (1) 客観的な創意が認められること(創造性)。
- (2) 客観的な新しさが認められること(新規性)。
- (3) 学術あるいは技術の発展に役立つこと(有用性)。
- (4) 論旨に明白な誤りが無いこと。
- (5) 本学会への投稿前に他の公開出版物に投稿されていないこと。

A15 論文要件の「新規性」について

- 電気学会の方針として、創造性、有用性、新規性のいずれかを満たすことが要件となっています。
- 特筆される新規性がなくても、査読において、**学術あるいは技術の発展に役立つ論文**と判定であれば、掲載判定となります。また、そのような論文を掲載することは社会的な貢献を考える上では重要であると思っております。

Q16 査読者への査読結果報告

- (教員, D3)以前から、査読結果を投稿者だけでなく査読者にも返すことが、他の査読委員の方々からご提案されています。私もこの意見に賛成です。IEEEでも、投稿者に査読結果を送る際にすべての査読者に最終的な査読結果を送っています。これは、査読者の参考になり、非常に有益なことだと考えます。何故、電気学会の論文委員会では、本件を躊躇されているのか、いささか疑問です。担当した査読者に最終的な査読結果を送っても、何ら問題は生じないのではないのでしょうか？ぜひとも改善を希望します。

A16 査読者への査読結果報告

- 電気学会論文誌の査読の基本方針は全部門共通で査読者としての割り当てを再度行わない限り、過去の査読結果を査読者へ通知しない方針としています。査読結果の査読者全員への報告の要望は、**電子投稿・査読システム改善検討WG**などで議論していますが、現在のところ難しい状況です。
- D部門では、要望に考慮して、試行で新査読フローを行う予定です。**A判定とD判定以外の査読者全員に再査読を依頼**することを来年1月より予定しています。その場合、査読者としての割り当てが行われますので、他査読者の査読結果も閲覧できることとなります。

Q17 他の査読者の査読結果の閲覧希望

- (企業, D3)自分が出した投稿論文の査読結果を見る以外には、他の査読委員の査読結果を見る機会がなかなかありません。他の査読委員の結果をみる機会があれば、自分の査読レベルを高めることもでき、学会としても、査読のレベルを合わせていくことができるのではないかと思います。たとえば、1つの論文を2名で査読しますが、自分ともう一人の方の査読結果だけは閲覧できるようにするとか。(査読判定前に見てしまうと意見が引きずられるかもしれませんがなので判定登録後にはじめてみる事が出来る、というのでもいいのかもしれませんが)※最近査読をしていませんので、もしシステムが変わっていましたら 申し訳ありません。

A17 他の査読者の査読結果の閲覧希望

- 電気学会論文誌の査読の基本方針は全部門共通で、査読者としての割り当てを再度行わない限り、過去の査読結果を査読者へ通知しない方針としています。
- D部門では、試行で新査読フローを行う予定です。**A判定とD判定以外の査読者全員に再査読を依頼**することを来年1月より2年間予定しています。その場合、査読者としての割り当てが行われますので、他査読者の査読結果も閲覧できることになります。

Q18 主査や論文幹事での処理の遅延

- (教員, D3)論文幹事として投稿論文を処理手順を知っている立場での意見ですが,投稿や再投稿した後, **主査や論文幹事で長く処理が止まっているケース**が見受けられます。例えば,投稿から査読開始まで2週間以上かかっているケースや,再投稿でも,修正後投稿から論文幹事選定(再投稿なので論文幹事は決っているはず)まで1週間以上かかり,査読者選定までさらにかかる(これも再査読なので査読者は決っているはず)ケース等が見受けられます。皆さんボランティアでやっていることなので,あまり強く求めることはありませんし,自分も論文幹事をしていて,対応が遅れるケースが皆無とはいえません。しかし,特殊なケースを除けばやはり**2~3日以内に対応すべきだ**と思います。そうでないと,折角の査読の迅速化のための諸般の努力が活かされませんし,何より,査読者に督促などできたものではありません。私の場合,査読のプロセスを知っているだけにこのように感じることもあるかもしれませんが,今一度,一般論として,主査や論文幹事の作業の迅速化を確認頂ければと存じます。何卒,よろしくお願い申し上げます。

A18 主査や論文幹事での処理の遅延

- ご指摘の点に関しましてはできるだけ改善が行われるように、**催促システムの見直し**検討も行ってきたいと思います。
- 論文幹事では、査読者を探している時間帯があります。**拒否されることも多く**、2～3日では難しい場合も多いです。**1週間程度の猶予**はお許し頂きたいと思います。

議事次第

- 編修長あいさつ.....大石編修長
- 査読マニュアルについて.....大石編修長
- 論文投稿・掲載状況.....事務局まとめ
- 電子査読システムの運用状況.....村上編修長補佐
- 論文委員意見と回答.....大石編修長
- フリーディスカッション

フリーディスカッション

終了時間: 13:10